

## 【桜蔭中学 社会】

試験時間 30 分に対して問題数は 49 問ですが、今年は記号選択の問題が多かったため、落ち着いて取り組むことが出来た受験生が多いようです。ただし、例年と同様に記述問題が 3 題あるので、正確さとスピードも欠かせません。分野別にみると、地理分野が 19 問、歴史分野が 19 問、公民分野が 11 問となっていて、いずれの分野でも弱点をつくらず、総合的な学力を身につけることが重要です。

### 【Ⅰ】「交通の発達」をテーマとした地理・歴史の融合問題

4 年ぶりに地理・歴史の融合問題が出題されましたが、「交通」自体は桜蔭中の頻出テーマでもあり、しっかりと練習を積み重ねた受験生にとっては動揺するほどのモデルチェンジではなかったと思います。

難度をみると、語句記述・選択問題ともに問われている内容は直近 2 年間と同様に基本的なものが多い印象です。地理分野では、統計の読み取り・地図中からの選択といった定番のほか、カーシェアリングやエコドライブといった新しい用語の理解を問うものが目立ちます。歴史分野では、並べかえや正誤判断などの頻出問題がほとんどで、歴史地理に関する出題（古代の遺跡の位置や五街道のルートを問うもの）もありました。

記述問題は 3 問出題され、そのうち 2 問は「30 字以内」という字数指定があるので、ここを時間内にクリアする冷静さも求められます。

以上のことから実際の合格ラインは 70～75%と予想されます。「合格するために必ず正解すべき問題」がはっきりしており、その上で（前述の記述問題を除けば）問 1・問 11・問 18・問 22・問 23 あたりで得点を上積みできるかが勝負のカギをにぎります。いずれにせよ、番狂わせが起こりづらい問題です。

### 【Ⅱ】公民分野の総合問題

文中の空欄補充について、語句記述型と選択肢型が混じっている問題で、4 年連続となる出題形式です。日本国憲法と社会保障制度、国会や裁判所のしくみなど例年と同様に幅広い分野から出題されており、昨年民法改正や南北首脳会談といった時事問題からの出題があるのも例年どおりでした。